



多摩支部会報第 57 号

2023 年 12 月 12 日発行

関東大学ラグビー対抗戦明早戦特集号

前へその先へ



年月を重ね、社会もラグビー界も変革が進む現代。
多様な働き方や新たな職業・職種の誕生。
世界を舞台に活躍する人材。
人種・性別を問わず活躍できる社会。
私たちの世界は急速に変化している。
明治ラグビーのスタイルや伝統を守りつつ、
社会の変革にただ適応するだけではなく、
前へ踏み出したその先にある未来を常に見据え、
あらゆる分野で求められる人材を目指す。
私たち自身が「前へ」飛び出す。
そして、「その先」の勝利者になる。

(明治大学ラグビー部創部 100 周年に向けての Team Vision, 「Vision History」から)

明治大学ラグビー部 HP より



MEIJI UNIVERSITY
RUGBY FOOTBALL CLUB



MEIJI UNIVERSITY
OFFICIAL FLAG



ONE MEIJI

ラグビー100年、明大スポーツ、おめでとうございます！ 毎年年末年始楽しませてもらっています。とっくとも負けられない明治プライドで前へ！

神宮の社の会本部 新部100周年での大学日本一奪還を前へ！

Munehiko 八幡山の練習見ました。アフロファミリーの練習の成果が前へ！前へ！

100周年 日本一 前へ！

三浦重優 明大ラグビー部は、私の「人生」の夢をたくさんありがとう！

北條佑二 このメンバーで行う試合も残りわずかです！一試合一試合を楽しんでください。

特別な戦いです。熊谷支部幹事 福田和彦 熊谷支部長 大澤孝 特別な戦いは、全力を尽くしてください。勝利を確信しております。

神奈川新聞社 強いメイジが前へ！

明大スポーツOB 後藤彦樹 優勝が見たいです！頑張れ、ラグビー部！

九郎丸歩 在学中に明治の優勝が見たいです！頑張れ、ラグビー部！

坂野上清 税理士事務所 M.U.R.F.C. ~beyond the century

政治経済学部大六野ゼミナールOB会 明研会一同 創部100周年、さらに前へ！

明大ラグビー部は我々の誇りです。100周年はONE MEIJIで日本一を奪還。神宮の社の会本部 応援しています。

大カプリフラワーOB大町哲生他11名 大カプリフラワー 澤田、山田、山本、森、堀、西本、川田、柴田 夢を誇りを紫紺のジャージに込めて、100周年に向けて「前へ」

神宮の社の会本部 応援しています。頑張れメイジ！

68代ラグ担一同より 明治大学が勝つ！

明治大学からふらわあ 23年卒業生一同 力強い一つONE MEIJI！

副会長の高橋淑浩を信じて応援してる。そのようなツクルを

感動 ありがとうございます！これからもずっと応援しています！

Meiji by One ないで来たMeiji PrideをMeijiで体現してください！

遠藤憲司 明治、さらに前へ！そして、世界の高みへ！

明研会会長 大野保司 前へ！「明治大学」の新たな未来を切り拓いて私達に是非見せてください。心より勝利を期待しています。

Rubicon DEAN 勇敢であれ。そんな君たちを応援したい！

ラグビーやってみたい女子大生 明大のラグビーに元気をもらっています！いつもありがとうございます！

紫紺魂カズ 前へ！紫紺の誇りを胸にともに闘おう！

感謝。 しらくも 躍動する紫紺 いつも励まされ

梅津 感謝。 しらくも 躍動する紫紺 いつも励まされ

梅津 感謝。 しらくも 躍動する紫紺 いつも励まされ

大学日本一への道は続く

～100周年のラグビー明早戦 明治 記念すべき創部100年を勝利で飾る～

今年で100周年を迎えるラグビー、伝統の「明早戦」が国立競技場で行われた。前半は明治が早稲田を圧倒し大幅リードで終えたものの、後半、早稲田に逆襲を許し、一時は8点差まで詰め寄られたが逃げ切り、記念すべきメモリアルイヤーを勝利で飾った。

1923年に始まった明早戦は今回で99回目となり、通算成績は明治の41勝55敗2分け。

FWの平均身長で早稲田より約5cm高い明治は前半、ラインアウトを有効に使い得点を重ねていく。序盤、早稲田ゴールまで5m

付近でのマイボールラインアウトを取ると、モールで押し込み、最後はHO松下(4年)が左にトライを決め、5-0と先制に成功する。さらに、ペナルティ

ゴールで3点を追加すると、前半23分にも早稲田ゴールまで5m付近のラインアウトからモールで押し込み、またもHO松下(4年)が右サイドに飛び込む。先制時と全く同じ展開で、この日2つ目のトライを奪う。コンバージョンも決め、15-0とリードを広げる。紫紺の明治FWが押し、BKも早稲田のお株を奪う展開ラグビーでトライを奪うなど、ゲームを支配した明治が、前半を27-3で折り返す。後半に入っても序盤は明治を象徴する「前へ」の言葉通り、FWはスクラムで早稲田に圧力をかけ、BKも愚直に

突破を図るなど、終始早稲田を圧倒し続けた。しかし、残り15分を切ると疲れからか動きが鈍り、早稲田に3つのトライを許し、

一時は8点差まで詰め寄られる。それでもロスタイム、意地でトライを奪い、58-38と最後は20点差をつけ、100周年

の明早戦を勝利で飾った。ゲームキャプテンを務めた山本嶺二郎(4年)は「苦しい時間帯はあったが、最後守って勝ち切れたのが嬉しい。課題は残るが及第点かなと思う。」と語り、大学日本一を決める全国大学選手権に向けて、「僕らは日本一を目指すので。一戦一戦しっかり戦って成長していければと思っている。」と次の戦いを見据えた。
(「TBS NEWS DIG」より、一部省略あり)



(「サンスポ」より)





撮影：佐々木一郎



(撮影：佐々木一郎)

早稲田戦のレビューと大学選手権の展望

(国立地域支部 越智浩治 (昭 59・商))

12月3日に創部100周年を迎えたラグビー部は、国立競技場に31,915人の観客が見守る中、早稲田大学と対戦しました。

試合の結果は前半27対3、後半は31対35、試合を通しては58対38で明治が勝利を納めました。後半の21分には41対3までリードを広げました。並みのチームであればこの時点で戦意喪失となるチームが多

い中、そこから46対38まで追い上げられ、さすが明治のライバル早稲田の怖さを感じさせた瞬間でした。場内アナウンスでロスタイムは7分と発表され、しかも後半40分を過ぎると国立競技場の時計の表示が消えてしまい、冷や冷やしてしまいましたが、明治の選手も

慌てることなく、最後は2トライを追加して、58対38でノーサイドを迎えました。

観戦経験の少ない方は、後半の追い上げに何をしているんだと思われるかもしれません。因みに明治の早稲田戦のチームのテーマがオールアウト。つまり出し切るということです。試合には流れがあるのでずっと前半のような試合を続けるのは困難です。それだけ明治の選手は出し切っていたので、後半に早稲田がワイドに振り始めるとディフェンスにもギャップが生じたり、足が止まってしまったわけです。

後半は早稲田に追い上げられた点は大学選手権に向けての課題ですが、私が見ている良かった点は、まず反則の少なさ。早稲田の10に対して明治は4。この反則の少なさは驚異的です。最後まで規律が保たれていた点は大いに評価すべき点だと思います。

次に修正能力の高さです。セットプレーは試合を通じて安定していましたが、試合の冒頭のラインアウトでロングスローをして、失敗してからはスローを手前の選手に合わせるように変えました。それからスクラムハーフからのハイパントもあまり上手いかなとみるや、ハイパントを上げなくして戦い方を変えたことです。



ここは明治の攻撃の引き出しが多く、懐が広いということが言えるのではないかと思います。それから慌てることなく、最後まで試合に臨めたこと。8点差まで追い上げられましたが、ゲームキャプテンの山本選手が、早稲田ゴール前の密集に絡みこぼれたボールを利根選手が広い突き放す貴重なトライに繋

がりました。

これで明治は対抗戦を2位で通過。その結果、大学選手権は準々決勝からとなりました。実は私は早稲田戦に負けた場合も想定して3回戦(秩父宮)、準々決勝(大阪で関西1位の京都産業大と対戦)のチケットを準備していましたが、大阪遠征も中止となりました。

その結果、準々決勝は、12月23日(土)に秩父宮ラグビー場で筑波大学と流通経済大学の勝者と対戦することになりました。

どちらのチームが出てきても簡単に勝てる相手ではありませんが、帝京戦、早稲田戦とメンバー外だった廣瀬キャプテンも復帰が期待されるので、チーム力はさらにアップするのではないかと思います。選手たちも昨シーズンは準々決勝で早稲田に敗れて、

正月越えをできず悔しい思いをしているだけに、その思いをぶつけて、結果を出してくれるでしょう。そして廣瀬キャプテンが復帰すれば、帝京戦、早稲田戦を戦った明治のチームとは全く異なったチームとしての戦いで正月越えをしてくれものと期待されます。もちろん、12月23日は、秩父宮ラグビー場に参ります。皆さんも是非秩父宮に足を運んで応援しましょう。



(撮影：越智浩治)



編集後記

「大学ラグビーを見て、リーグワンとは明らかに違う何かがあると思う。それは、勝ち負けや技術だけではない「心（気持ち）」を感じるプレーだ。学生は「心」でラグビーをやって欲しい。勝っておごらず、負けて腐らずの精神で、大学日本一を目指してほしい。」(明大OB・松尾雄治) —報知新聞観戦記(2023・12・4)より)。 会報第57号も多くの多摩支部の皆さんのご協力をいただき、発刊出来ました。

「ONE MEIJI」の下、心を込めてこれからも務めていきたいと思っております。(佐々木一郎、柴田健彦)



4年ぶりに制限のない全国校友大会が名古屋で開催されました。ご挨拶では柳谷孝理事長や大六野耕作学長が今後、減少する学生数に対応するため諸施策を進めていることや、北野大校友会会長は校友会の目的に加えて、緩やかでよいので校友相互の支援を行いたいと話された。隠れた人材を掘り起こし支援することや、多摩支部のメイトブックにも触れました。他来賓の挨拶では大村秀章愛知県知事のビデオレターや河村たかし名古屋市長のスピーチがありました。元中日ドラゴンズの川上憲伸氏の講演も面白い内容でした。最後の懇親会では約800名の校友が集まり親睦を深めました。(記・江面)

国分寺地域支部 「歴史を学び」、そして「健康ウォーク」を

～12年間続けてきました「歴史探訪」、今年も開催～

2012年11月23日、「国分寺地域支部創立5周年記念行事」として、スタートしました。第1回は、国立、青梅地域支部の皆様にもご参加頂き、総勢29名、小雨がばらつく寒空のなか、「国史跡武蔵国分寺跡周辺散策」が始まりでした。以来、今回で14回を向え、歴史探訪ウォーキングを通じ、これまで多くの地域支部の皆様との交流を重ねてきました。そもそも、この歴史探訪ウォーキングは、国史跡武蔵国分寺跡を通じ、多くの方々に古の歴史文化に思いを馳せて頂きたいと

の願いの下、40年余り国分寺市教育委員会で国史跡武蔵分寺跡の発掘・保存整備等文化財行政に携わるとともに、古代史等の研究を行ってきた小林信夫学芸員（国分寺地域支部副支部長）の後ろ盾があって実現できた行事です。

多摩の歴史や風土にもっともっと触れていただきたいということで、「府中の分倍河原古戦場跡」、「ハケの道」、「玉川上水」、「国立市谷保・矢川ママ下湧水」、「東村山・八国山緑地」等にも足を運びました。

今回で14回目の歴史探訪ウォーキングは、「昭島市 下の川（龍津寺の湧水）・拝島大師」。

10月25日（水）、心地良い秋の晴天下、「絶好のウォーキング日和」、午前9時、JR青梅線・拝島駅南口に、6地域支部18名（国分寺7名、小平6名、清瀬2名、日野・武蔵野・立川各1名）の皆様が集合。コース：旧三井家拝島別邸（都指定有形文化財）現在は非公開で裏門から全容を見る。→「昭和用水堰」遊歩道から「林の上遺跡（縄文時代）、対岸の滝山城（中世城郭跡）→「龍津寺」からの湧水（東京名水57選）に沿った遊歩道→西日本随一のお大師様「拝島大師」（天台宗・開創1578年）～広大な境内は平日とあって、人気も無く、静寂。締めは、「バーミヤン」でのキンキンに冷えた「生ビール」、最高でした。小林信夫学芸員が作成した写真入りの詳細な資料によるガイドで、「歴史を学び」そして「健康ウォーク」、満喫の一日でした。次は、貴方の街の歴史を探訪に行きますよ、ご一緒しませんか。

拝島大師



小平地域支部

大雨、どうする「焼きそば」

小平地域支部は、2009年から毎年、「小平市民祭り」に参加し、2010年からは、「焼きそば」の出店を行って来ました。

今年も、10月15日(日)、「第45回小平市民祭り」に出店しました。しかしこの日はあいにく、朝から大雨、風も強く、気温も14℃寒い朝でした。

焼きそばの材料である「麺とキャベツ」を大量

に仕入れ、果たして販売つくすことができるのか？不安を抱えながら、焼きそばを焼き始めました。

午前中は、雨も降り止まずお客がまったく来ない！閑古鳥、この焼きそばの材料の山は・・・思い悩む時間でした。しかし、天は自ら助くる者を助く、昼前、突然、雨は上がり、日が差してくるではありませんか、事態は一変！見る間にお客が殺到。

休む間もなく作業を続けても、後から後から列を成して、前方カウンターからは、「30名様お待ちです」とか、嬉しい悲鳴。

プレッシャーをかけられながら、あっという間に閉会の時間が迫ってきました。

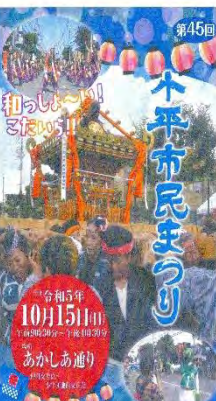
987食、目標の1,000食には届きませんでした。大満足のいく結果となりました。

4年ぶりという事と当日の天候から、ご協力いただきました

小平地域支部の皆さんに感謝感謝です。

事前の調理備品購入等の準備・会場テント備品設営・当日の鉄板焼きとパック詰め及び販売・翌日の借用物返却とごみ処理など延べ42名のご協力をいただき、お疲れ様でした。足腰が悲鳴を上げながら、必死に対応して頂き、本当にありがとうございました。

来年も出店します、是非「多摩支部の皆さん」もおいで下さい。



地域支部だより

国立地域支部

久しぶりの稲刈り



台風2号の影響により、6月2日から4日にかけて継続的に集中豪雨があり、多摩川が増水。これにより多摩川からの導流路の一部（土のう約300袋）が決壊した。復旧工事の遅れもあり、田植えは、残念ながら4回延期のうえ地主に委託。しかし、稲刈りは、11月11日（土）、1年振りで総勢20名、親子孫三代の参加も加わり、想いを込めて行いました。明日を残す原風景の中、雀・雁に先を越され稲穂を食べられたが、12月17日の「明大米ブランド」の頒布開催が待ち遠しい。

明大会田圃処

国立の“餅つき”に想う 沼尻 哲（昭46・商）

師走の風物詩、多摩支部内で地域支部行事の原点とも言える手作りのイベント、歴史的スタートは、1996年だ。この年の11月つきと搗き立て餅のずんだ+じざい（あである。今年で25年雨天で1回、只このリバケツ一杯を搗き



17日、参加者51名、餅メニューが、お供え餅+んころ)+からみ+納豆目、中止はコロナで2回、年は雨天対策に集中、ポ忘れ、困っていたところ、

土屋支部長夫人が持ち帰り、あっという間に“お赤飯”を作ってきて戴いたことも懐かしい。国分寺地域支部との共催、近隣地域支部へのお誘い、そして2016年からは、明大祭実行委員の現役学生と立川地域支部の故守重芳樹さんのご尽力で、ご子息で明大相撲部の監督である守重佳昭さん率いる相撲部員の搗き手の応援も加わり、7地域支部70名+学生17名+友人・子供6名の合計93名の参加があったのが過去最多であった。午前9時スタート、まずお供え餅を搗き、手早く丸めバックする。蒸かす間に国立産の里芋等野菜・牛肉8kを煮込んだ山形芋煮、そして甘酒で暖を取る。続いて5種類の搗きたて餅の食べ放題。ここで使われるもち米は、90k俗に言う1俵半である。帰りには、お供え餅・ゆず・カレンダーとお土産もいっぱい。共催支部でもあり前々日の米とぎから国分寺地域支部の皆さんにもご協力頂いている。五年前からは“稲から育てる餅づくり”を目指している。毎年、小春日和の12月第3日曜日、田園風景のど真ん中「さとのいえ」で終日、オール明治が一堂に会し、あちこちで食し・語り合う輪が広がって、正に“明治はひとつ”である。就活について学生が話し込んでいる光景も見られるなど、校友会の意義深さを実感する。これからも更に進化するイベントを見守っていききたい思いである。（国分寺地域支部会報22号（2021年12月号より）





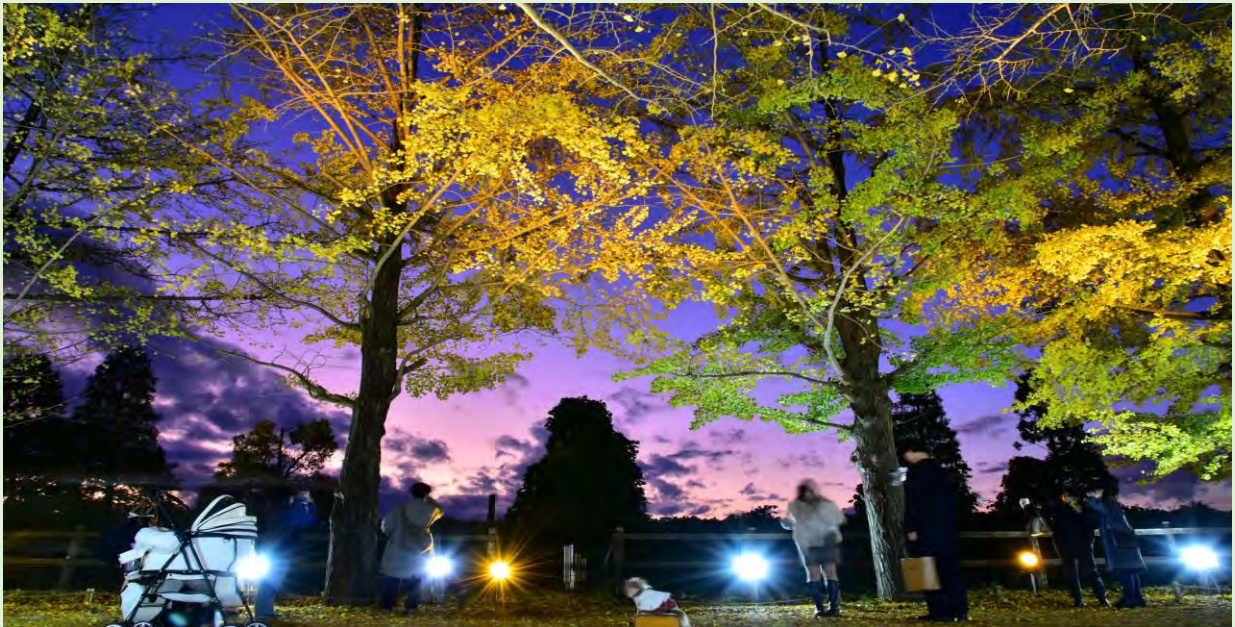
東久留米からのダイヤモンド富士



清瀬から眺める富士



昭和記念公園かたらいのイチョウ並木ライトアップ



今までも、そしてこれからも。

明治の今を追い続ける。

明治大学校友会多摩支部の皆様へ

明大スポーツ新聞を応援してください

明大スポーツ新聞部

公式X (旧Twitter)
@meisupo

公式Instagram
@meisupo_photo

定期購読は
こちらから!!

